た。 農閑期の手仕事、 時代の生活様式だっ た。	を の を たでの 発電機、 う にした。	きの阿木の繁華街、 でている。	土間から板の間に。	たい)を使う以前は、 はしや茶碗を入れて はしや茶碗を入れて	の、青野集落が犠牲 になった。 利用して上流の木を運 を消した。明知線の で	つ)が大繁殖。阿木 でい が 大繁殖。 阿木	多く荷物運びは荷駄が大切にされた。	アマテラス誕生のおりの伝説。お産の血を洗い清めた所が血洗いの池。今は埋まってしまったが、近くに血洗神社が祀られている。 また、へその緒を切った鎌は三森山にそれぞれ納められ、産湯に浸かった場所が湯舟沢(神坂)、その湯を沸かすため釜で水を汲んだ所が釜沢(落合)だと伝えられる。
を	開発をした。		やつの主流だった。	て地域を回った。 て地域を回った。	を報じ、 はうの幹は、途中で切られている。これは大根木の橋を架け替える際に使われたものと伝えられる。 日清、日露戦争から第2次大戦までの所木の戦死者が祀られている。	こと。新森や大野八幡辺 1856年の3度大きな じゃぬけがあった。 長楽寺にある県の天然記	地に散在している。	昭和22年・44年・36年 と大洪水に見舞われた。 洪水で広がった。戦後の 乱伐後遺症である。
					にあり、10月(後) でいる。 にあり、10月見を行わないと、 ある沼地を踏み荒ら すと、雨が降るという言い伝えです。			世、若者が肝試しで打杭峠に が中、気の弱い者が着物のすそ に打ちつけ、動けなくなり、驚 いて死んでしまった。 でいたが、上下逆に打ち込まれ でいただめ、枝が下に向かって でいたため、枝が下に向かって はずのれでやがて花が ようになった。
	として残っている。		***・大根木などの古墳群とともに、いたるところから土器が出る。	自然の恵みに感謝	修験者が居り、昭和24年頃まで女人禁制であった。 難視聴地が解消さい が見られるようになった。	でではか萬嶽寺・各家庭にも疎開者はいた。 長楽寺の奥の院。	原所)があった。外の下で生活した。外の下で生活した。外	治めた。治めた。
	をぎ、シカは野菜の でき、猪やハクビシンも畑を荒らしている。	から夜遅くまでよくから夜遅くまでよく	印となっている。	いる。	野田、真原、久須田として作られた。終戦後、現用している。	て」、「行きょうりですね」、「行きょうりつある」とも言い、「行かれつつある」という意味の方言が残っている。	割り子弁当は木製できた。	が岩村城をめぐってが岩村城をめぐって